

## 久重のまちづくり計画


**「第2期久重のまちづくり計画」 第5回策定会議を開催しました！**

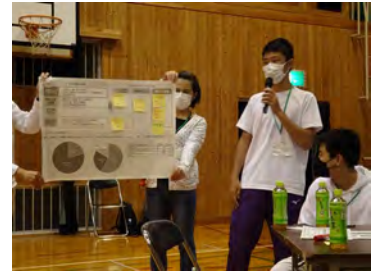
防災編！

5月14日(土)、久重小学校の体育館にて第5回策定会議を開催しました！

新型コロナウイルス感染拡大により、12月から開催できていませんでしたが、無事に再開でき、地域住民37名、行政関係者11名、高知新聞記者1名、また、計画策定アドバイザーの畠中洋行さんを合わせると**総勢50名**の方にお集まりいただきました！


**久重地区防災計画策定会議の振り返りを行いました！**

高知市地域防災推進課の佐野さんから、久重自主防災連合会が主体となって協働している「久重地区防災計画」策定会議の振り返り・情報共有をしていただきました。そのほか、久重のハザード(土砂災害・孤立化・地震)のお話や、久重地域の避難場所、久重自主防災連合会のこれまでの活動などをお話いただき、久重地域の現状や防災における課題などを参加者全員で共有することができました！


**久重地域の「防災」をテーマに、グループワークを行いました！**

第5回策定会議では、久重自主防災連合会や地域防災推進課に協力していただき、防災をテーマに、話し合いをしていただきました。本会議で話し合われた内容は、「久重地区防災計画」と「第2期久重のまちづくり計画」で記載される予定です！

グループワークでは、【①出てきた意見に対する感想、②具体的な取り組み方法、③新たな事業】の検討を行いました。(詳細は、見開きをご参照ください。)

今回は、久重地域の自主防災に取り組まれている方々が参加しており、久重地域で懸念されている土砂崩れ・孤立化の問題や、南海トラフ地震に備えて、次の5年間の計画でどのような対策ができるのかなどについて様々な意見が出ました！



久重地域の子どもたちが発表してくれており、子どもから大人まで、一緒に久重地域のためにできることはないか考えてくれています！

**計画策定アドバイザー 畠中洋行さんからの話し**

子どもたちが発表をしてくれたことが印象的で、会議では、子どもならではの視点が出ていましたので、紹介させていただきます。「どうすれば防災訓練に参加してくれるのか？」という話の中で、「いろいろな人が参加して楽しい訓練ならいいよね。」と、「防災散歩」として、災害時に久重地域で危険になる場所を回る事業や、炊き出し訓練と一体とした「防災運動会(景品が防災グッズなど)」を開催してはどうかなど、実践してみたら楽しそうな意見がたくさん出ていました。

子どもファンド事業では、久重地域にある野草などを活用したレシピを作り、実際に調理してみたことがあります。子どもファンド事業に習い、春夏秋冬で食べられる野草等を調査しておき、防災訓練などで調理してみるのも面白いのではないかなと感じました。

また、令和4年度の子どもファンド事業では、防災をテーマにしている内容もあり、防災デイクャンプとして、防災食に地域の野草を使う、簡易トイレの使い方などを学ぶ内容を現在考えています。このような取り組みを地域全体で取り組んでいければいいなと思っています。



第5回策定会議のグループワークで出た意見(一部抜粋)

No. ①-1 安全・安心再発見事業

事業名	感想	具体的な工夫	新たな事業
①地域と連携した避難行動要支援者の個別避難計画の作成と更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家が潰れなかったら助けに行けると思う。</li> <li>・車で避難するとき、安全な避難路が確保できるのか。</li> <li>・昼間の避難はどうするのか。</li> <li>・中高生と避難行動要支援者の関わりがない。</li> <li>・個別避難計画作成も大切であるが、顔の見える関係作りをしていくべきだ。</li> <li>・ご近所が遠い。</li> <li>・特に近所で個人情報の把握を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人に声をかける。</li> <li>・避難行動要支援者自身が学生の力を借りる。</li> <li>・顔の見える関係作りがあるため、挨拶、ゴミ拾い、草刈り等を実施する。</li> <li>・隣2、3軒で誰が避難時に支援が必要か、誰が支援できるのかを把握することを徹底する。</li> <li>・まずは挨拶をし、話をする雰囲気作りをする。</li> <li>また、関われる場所づくりをする。</li> <li>・昼と夜の場合の個別避難計画を作成する。</li> <li>・避難場所を個別避難計画で明確にしておく。</li> <li>・リヤカーや一輪車など移動するための道具を準備する。</li> <li>・ジャケットで担架代わりになるものがあるので、講習会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田んぼには電灯がつけられないため、夜間の避難方法について周知する。</li> </ul>
②まち歩きや各家庭への聞き取り調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書で聞き取る場合は、質問事項が多いと記入が大変であるため、返送率が下がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のほうが分かりやすいため、地域や各班で説明会を開く。</li> <li>・民生委員とともに独居の方を把握する。</li> </ul>	
③「久重再発見ガイド安全・安心編」の作成・配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校を卒業したら、防災に関する情報を得ることが少ない。</li> <li>・避難場所が少ない。</li> <li>・避難所が遠い。</li> <li>・「久重再発見ガイド」について知られていない。</li> <li>・土砂災害の定義とは？</li> <li>・避難ルートが知られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で通学路での逃げ地図を確認する。</li> <li>・逃げ地図作りは数年間行われていないので、作り直す必要がある。定期的な更新が必要。</li> <li>・危険箇所マップ、逃げ地図、久重再発見ガイドを地域で広めるために配る。</li> <li>・避難所・避難場所までの詳しい地図の作成・周知をする。</li> <li>・町から歩いて行けるルートが2本あるため、周知してはどうか。(1時間程度で、もともとは通学路であった。)</li> <li>・災害時にも通れるルートを知るために、防災ハイキングを実施する。</li> <li>・避難ルートの草刈りを実施する。</li> <li>・在宅避難ができるよう自宅を避難所とする。</li> <li>・避難所を表示する看板を設置する。</li> <li>・参加していない人に呼びかけが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に助けあうため、グループを作成する。</li> <li>・LINE以外の伝達方法を考える。</li> <li>・久重の防災ネットワークLINEグループを作ってはどうか。</li> <li>・LINEで土砂災害の情報を共有する。</li> <li>・防災行政無線や有線スピーカーを設置する。</li> <li>・孤立化したときに利用できるかもしれないため、汲み取り式トイレがある家を調査する。</li> <li>・一人暮らし世帯の避難完了カードを作成する。</li> </ul>
④「久重再発見ガイド安全・安心編」や避難所運営マニュアルを活用した防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出し訓練には子どもは参加していない。</li> <li>・ペットが苦手な人のために、スペースを分ける必要がある。</li> <li>・地域で犬猫が騒ぎになり、トラウマになっている子どもがいる。</li> <li>・病気があるかもしれないので、犬猫は怖い。</li> <li>・安否確認ができる体制作りが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから高齢者まで幅広く参加しやすく、分かりやすく、楽しい内容で訓練を実施する。</li> <li>・各単位自主防災会で訓練を実施する。</li> <li>・孤立した時のため、近所で訓練し、近所で共有する。</li> <li>・どういうふうにはペットは避難所で過ごすのかということ避難訓練の前に説明する。</li> <li>・ペットのお世話係を想定した訓練をする。</li> <li>・ペットフードの備蓄が必要である。</li> <li>・避難方法の多様性について紹介する。</li> <li>・避難所までの行き方の手順を防災訓練とは別に地域広める。</li> <li>・地域にメガソーラーシステムがあるので、その電力を回す。</li> <li>・川に関を作り貯水タンクに代える。</li> <li>・浄水器を配備して、プールの水を飲料水として使えるようにする。</li> <li>・避難所運営マニュアルについて手紙を配る。</li> <li>・自分たちでテントを持参し、避難所生活が送れるか実践してみる。</li> <li>・防災倉庫の場所を分かるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間であれば、若い人も参加できるため、夜間訓練を実施する。</li> <li>・車中泊訓練を実施する。</li> <li>・避難行動要支援者を対象とした避難訓練を実施する。</li> <li>・感染対策を行った訓練を実施する。</li> <li>・学校でテントを張る訓練をする。</li> <li>・訓練日を設定して、できる範囲内で地域で一斉に実施する。(例えば、水を使用しない。火を使わない。)</li> <li>・訓練に参加したお徳感があるようにする。</li> <li>・地域でできるコロナ対応された食事を作る。</li> <li>・応急処置の冊子を避難所に配備する。</li> </ul>
⑤久重で育つ野草や有用植物を活用した炊き出し訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有用植物の見分けがつかないので、食べることが不安である。</li> <li>・簡単なレシピを発信出来たらいつでも作りやすいのでは。</li> <li>・子どもファンデでメンマ、お茶、チヂミを作った。</li> <li>・災害時には、百姓さんが支援をしてくれないだろうか。</li> <li>・防災食の保管をどこで行っているのか知らない。</li> <li>・高齢者向けの食事である。</li> <li>・試食品でランキング付けることが楽しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトドアレシピ、防災レシピを家で作る。</li> <li>・カレーだけではなく、地域の食材を生かした炊き出し訓練を実施する。</li> <li>・避難後作ることが難しいレシピがあるため、家庭でできるレシピを考えたり、保存食をあらかじめ作っておく。</li> <li>・四季ごとに防災食のレシピ付きで実演する。</li> <li>・アルファ化米のお供になるふりかけを作る。</li> <li>・白ご飯がおいしくなるようなレシピを作る。</li> <li>・食べられる野草を勉強する。備蓄もする。</li> <li>・水のろ過方法を紹介し、水を確保できることを知る機会とする。</li> <li>・栄養満点の卵を活用する。</li> <li>・野草でビタミン、ジビエでタンパク質を補う。</li> <li>・子どもが広めるだけではなく、地域の大人も一緒に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹を使ってご飯を炊く。</li> <li>・災害時メニューを事前に作っておく。</li> <li>・バッククッキングを実施する。</li> <li>・アルファ化米は、子どもファンデで調味料の保存食作成に挑戦する。</li> <li>・災害時に助けてくれる農家と契約する。</li> <li>・季節ごとの野菜や有用植物の確認を行う。</li> <li>・地元のお店など災害時も開けてもらうようお願いする。</li> <li>・ストックできる食材の方法を教える。</li> </ul>

事業名	感想	具体的な工夫	新たな事業
①傷病者や物資の搬送を可能とするヘリポートの整備を、民有地の活用も含めて検討する。	・高知ゴルフ倶楽部は上手く活用できるのか。形だけではなく、地域とも話をしてほしい。		・救急医療体制を構築する。 ・ヘリポートの整備を早急に行う。
②「高知県物資配送計画」の策定を受けて、「高知市物資配送計画」の策定に取り組む。			
③久重小学校の窓ガラス等は強化ガラスへの取り替えを、その他の設備も必要に応じて改修を行う。			・体育館の土砂災害警戒区域(イエローゾーン)の解除。 ・体育館の電気が落ちてこないようにする。
④発生頻度の高い地震(L1)への対応を想定して、避難者一日分の食料や飲料水、生活必需品等の備蓄を進める。		・高知市防災倉庫の品目や数量を共有する。	・消防設備を充実させる。 ・大型発電機を整備する。 ・道路を整備する。 ・AEDを設置する。 ・雨水用の貯水槽を置き、防火水槽代わりとして火災対策を行う。 ・防災行政無線の充実化。 ・防火水槽を整備する。 ・プールの水を濾過して飲み水に使えるようにする。 ・避難所備蓄品の充実化。 ・ベッドとパーテーションを整備する
①自助の啓発	・寝室に何も置いていない。 ・耐震改修の自己負担が大きい。 ・ブロック塀の改修工事の補助金を見直す。 ・家が潰れても倉庫に鍋や水がある。 ・テントを用意している。 ・1週間分の備蓄をしている。 ・家族が多いと非常持ち出し袋では足りない。 ・自分事と捉えられるように工夫が必要。 ・川の水は飲めるのか？	・自宅を耐震改修することが大事。 ・耐震改修や家具転倒防止対策の研修会を地区で行う。 ・家具転倒防止対策の申請を地区でまとめて行う。 ・家具転倒防止対策を行っている優良な家を認定する。 ・発電機器がある家を聞き取る。 ・実際に必要な備蓄品の数量や品目を詳しく周知する。 ・最低でも持参してほしい備蓄品を周知する。 ・備蓄目標を設定し、達成状況を自己評価する。 ・高齢者は自分でワンタッチテントを購入する。 ・防災訓練の際に、備蓄品や感震ブレーカーについて広報を行う。 ・感震ブレーカーなど知られていない機械について、説明する映像やチラシを作成する。 ・モバイルバッテリーを購入する。 ・災害用備蓄品のロコミを共有する。 ・家族で備蓄品の用意をする。 ・トイレの備蓄の啓発を強化する。 ・みんなで備蓄したらいいものをリストアップする。 ・自助で行わなければならないことの啓発を行う。 ・何が必要か実際に避難所シュミレーションをしたい。 ・事前準備で災害に備えられることを情報共有する会を持つ。	・耐震改修に対する補助制度の改善を行う。 ・各家庭への備蓄品の見本を配布する。 ・炊き出し訓練で3日分の備蓄品の展示を行う。 ・家を耐震化し、備蓄をし分散した避難生活を送るようにする。 ・キッズボランティアを結成して、自助啓発協力隊として活動する。 ・防災士による訪問活動を行う。
②防災意識の啓発	・逃げ地図作りは机上で行うよりも、現地で実際に確認するほうがいい。 ・逃げ地図作成しているが周知不足である。 ・入定地区はすぐに孤立するため、話し合いが大切である。	・街にいたときに久重に戻ってこられるルートがあるため、避難路を知る機会を作る。 ・自分の家からの逃げ地図作りを行う。 ・土砂災害について、前兆を含め、講習を行う。 ・小学校で行った煙体験などで避難の仕方を勉強する。 ・救命方法の研修を実施する。 ・メールで情報伝達するシステムを作る。 ・小学校と協力し、保護者も参加しやすくする。	・防災運動会を実施する。景品は防災グッズにする。 ・危険な場所看板を設置する。 ・防災散歩を実施する。

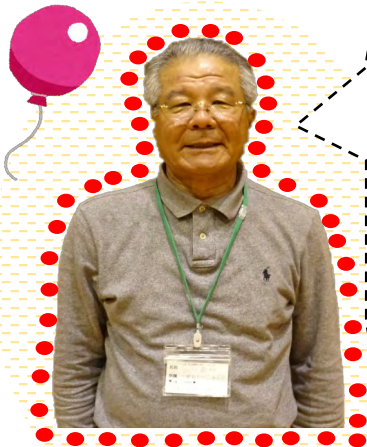
No. ②  
13 防災機能強化計画

新たな事業

計画策定の仲間を紹介します！

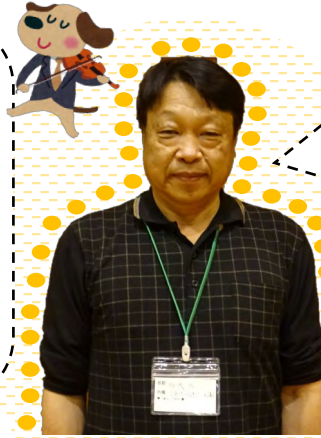
質問

- ①久重地域で必要な防災の取組
- ②将来久重がこんなまちになってほしい！



ふたがわ やすゆき  
二川 益行 さん  
(久重自主防災連合会 会長)

- ①高齢者が増えていく中では、要支援者個別計画を理解した高齢者の見守りが必要だと思います。
- ②高齢者が安心して生活できる里山になってほしいです。

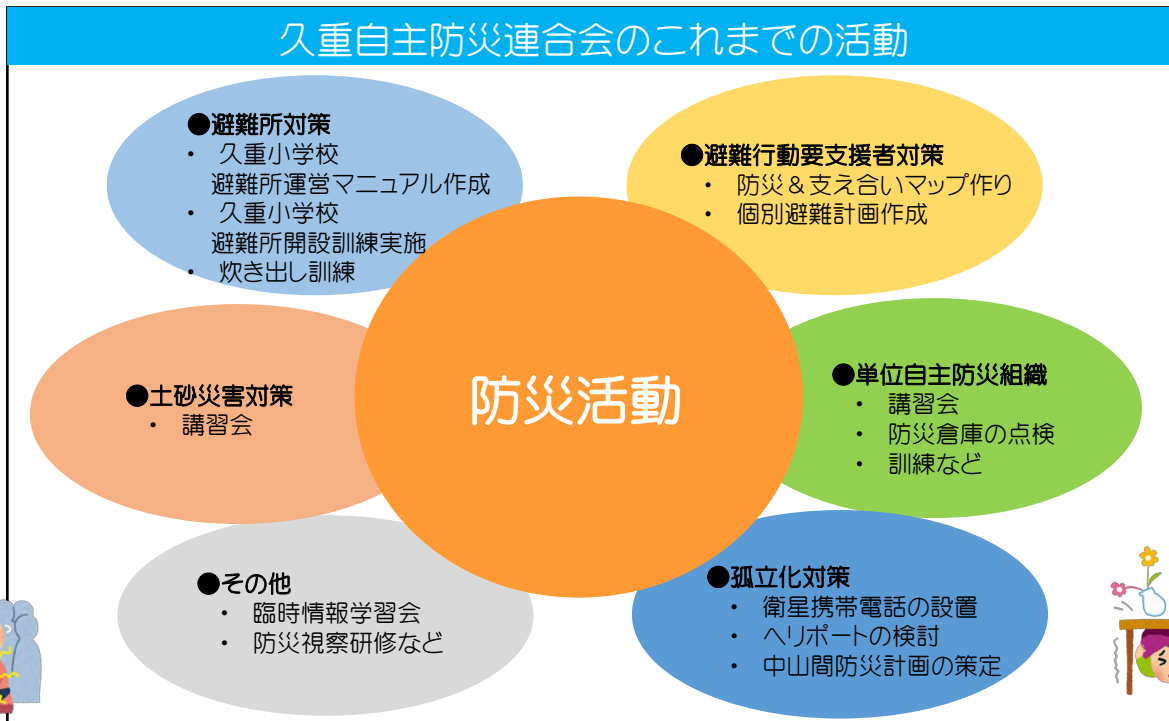


かも たいち  
加茂 太一 さん  
(久重自主防災連合会 事務局長)

- ①アンケート調査でも、防災訓練などの参加率40%前後と低かったため、日頃から災害に備えていく防災意識を地域全体に啓発していく必要があります！
- ②こどもから大人まで安心して生活できる地域になってほしいです。



久重自主防災連合会のこれまでの活動



あなたの意見が久重の未来をつくれます！

参加者募集！

「第2期久重のまちづくり計画」の策定会議は、久重に関わりのある方(久重にお住まいの方・久重にお勤めの方・久重が好きな方 等々)ならどなたでも自由にご参加いただけます。連絡先は裏面に記載しております。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしております！

～第6回策定会議のご案内～

- ☆内容(予定) : アンケート結果解説(福祉編)
- ☆日時 : 6月●日(土) 18時～
- ☆場所 : 久重小学校 体育館

第6回策定会議は、**福祉**をテーマに行います！



■連絡先

高知市地域コミュニティ推進課(担当:巽・石村)  
TEL :088-823-9080 FAX :088-824-9794  
E-mail : kc-102000@city.kochi.lg.jp

■「第2期久重のまちづくり計画」

主体:久重地域連携協議会  
久重地域連携協議会の活動は  
右のQRコードからご覧いただけます。

